

## アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）2014 年度教育研究報告書

<b>事業課題名</b>	情報リテラシー教育の地域研究への活用方法の研究－地域研究入門者のためのパスファインダー作成－
<b>代表者名</b>	安藤和雄
<b>事業概要 (600 字程度)</b>	<p>東南アジア研究所図書室は、これまで KUASU 事業枠で附属図書館と共同してアジア各国語の図書館利用案内(東南ア研:英・中・韓・タイ・インドネシア・ベトナム・ミャンマー語、附属図書館:タイ・インドネシア語・ベトナム語)を作成し、アジア諸国からの留学生・研究者が図書館という教育・研究施設を利用しやすくするための基本ツールを提供してきた。本年度から利用案内というクイックレファレンスを発展させ、日本と ASEAN 諸国の地域研究入門者向けに、論文作成の実践ツールとなる各種パスファインダー和・英(・一部アジア諸国語を含む)版を作成する。設定したテーマに基づいて資料や情報を検索する手順書となるパスファインダーは、公立図書館や学部図書館で作成され、大学院生以上の専門課程に対してはほとんど取り組まれてこなかった。しかし、日本を含む大学院生以下の若い世代でもマイクロ資料や電子リソースを活用した論文作成について、欧米に比して不慣れな傾向がある。本事業では、資料情報、資料アクセス方法、文献目録作成など論文作成から投稿に至るプロセスを導くツールを開発し、リーフレット、HPで利用者に提供することをめざした。</p>
<b>成果の概要 (800 字程度)</b>	<p>本事業では、別途 KUASU 事業枠のガジェットデバイスの教育・研究ツール開発事業と連動して、大学院生・留学生向け論文作成の実践ツールとなる各種パスファインダー和・英(・一部アジア諸国語を含む)版を作成・提供することをめざした。</p> <p>パスファインダーの下敷きとして、附属図書館作成 KULINE・E-Resource 利用法の各種パスファインダーを援用し、東南アジア研究所図書室版として利用可能な内容に修正・英訳化した。</p> <p>東南ア研図書室利用者には、ASEAN 諸国からの研究者・利用者が当然ながら多い。その多くが本国における学術情報基盤環境未整備のため、まだ OPAC や電子リソース利用経験が少ない。今年度は、KULINE の Advanced search、E-Resource 導入を中心としたパスファインダーを作成し、iPadに組み込んだ。2014 年 10 月の留学生・院生向け授業で Path to thesis と題してコンテンツを利用して見たが、留学生のみならず本学院生においても論文作成上必須の基本的技術となる雑誌及び論文検索が不得手であること、また E-Resource 使用が少ない等の諸課題が看取された。</p> <p>今後、留学生・研究者に対して図書館利用初期段階において検索技術・E-Resource 理解をきちんと学習する機会・場所を積極的に設けていく必要を切実に感じている。なお、本事業については、2014 年 11 月の第 16 回図書館総合展(※1)において公開した。</p> <p>※1 第 16 回図書館総合展 報告:  <a href="http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/event/20141105-07/2014-11-05/#201401105_report">http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/event/20141105-07/2014-11-05/#201401105_report</a></p>



東南アジア研究所図書室内にて iPad による検索レクチャを行う



東南アジア研究所図書室内にて iPad を使ってインドネシア語検索をする研究員